

収入保険 ～加入者の声～



安定した経営に一役

〈加美町〉

大野 美知雄さん・美博さん

水稻14.2畝のほか、ネギ25畝を栽培しています。

コロナ禍の影響で消費が伸びず、予想以上の米価下落、ネギも安値が続き、収入減は免れないと感じています。

作付面積の増加に伴い、大型化した農業機械の経費は増え、**収入の安定は不可欠なので、自然災害に加え、ケガや病気による収入減少が心配です。**

収入保険は農業収入を補償してくれる新しいタイプの保険で、これまでは対象にならない価格低下等も補償され、安心感があります。

今後は法人化し営農規模を拡大する予定なので、収入保険で安定した経営をしていきたいです。

【農業共済新聞2021年12月2週号掲載】

幅広い補償が決め手に

〈亘理町〉

岩佐 好博さん

水稻5畝とイチゴ15畝を手掛けるほか、集落営農組織で大豆を20畝栽培しています。

経営規模の拡大とリスク分散を図るため、今年からイチゴ栽培を始めましたが、**新規作物の導入にはリスクが伴います。収入保険は幅広く補償するため魅力を感じ、加入を決めました。**

昨年は、大幅な米価下落で大きな痛手を受け、大豆栽培では交付金制度の内容変更等の影響があり、リスクがあります。**価格低下が補償され、米価の下落に対する備えができて良かったです。**

将来は水稻やイチゴと組み合わせて通年で営農できる体制を確立していきたいです。



【農業共済新聞2021年12月1週号掲載】



次年度の計画が立てやすい

〈大崎市田尻〉

高橋 昇さん・澄江さん

水稻4.3畝と野菜（ブロッコリー、タマネギ、葉物等）1畝、スターチス0.5畝を栽培しています。

夫婦だけで農業に従事しているため、体調不良になった際の営農に不安を感じるほか、努力しても補えないコロナ禍での価格低迷、近年の米価下落も心配しています。

収入保険は、幅広い補償内容と明確な支払い基準に利点を感じ、加入を決めました。

収入減少を補てんする収入保険は、次年度の計画を立てる際にも良かったと思います。

これからは、体に負担がかからない高収益が見込める品目を導入し、体調管理をしっかりしながら作業の効率化を図っていきたいと思っています。

【農業共済新聞2021年12月2週号掲載】

収入保険 ～加入者の声～



農業経営継続に必要不可欠

〈白石市〉

佐藤 良夫さん

水稻8.3畝に主食用米と飼料用米を栽培しています。

収入保険には、**病気やケガで農作業ができなくなったときや、この地区に多発するイノシシの被害を受けた際に補償されるため加入しました。**

昨年、稲刈り中盤に乾燥機械が故障し、主食用米2トほどが出荷できなくなり慌てました。収入保険はこのような事故にも対応するため、本当に助かりました。

収入保険は、農業経営を継続していく上で、あらゆるリスクへの備えとして必要不可欠です。これからも農地を荒らさないよう積極的に米作りに取り組んでいきたいです。

【農業共済新聞2021年11月1週号掲載】

収入保険が家族経営を支える

〈大郷町〉

村山 貴宏さん

モモ8品種、ブドウ16品種、リンゴ8品種を栽培しています。

収穫した果実は主に道の駅に出荷しています。直売はお客様の反応がすぐ分かるうえ、価格設定は自分でできますが、集客に波があり、安定した収入を得ることが難しいです。

また、**家族経営なので、病気やケガで誰かが働けなくなった途端に経営が苦しくなることが心配です。**

天候不順や病害、鳥獣害で収量が減少することもあり、私たちのような家族経営には、収入保険の存在は大きいと感じています。

今後も、家族みんなで力を合わせて取り組んでいきたいです。

【広報紙「和み」2021年11月号掲載】



一定の経営収支を見込み設備投資を計画

〈亶理町〉

佐藤 仁さん

鉄骨ハウス4棟、パイプハウス3棟で1年を通して輪ギクを栽培しています。

いつ起こるかわからない災害や、新型コロナウイルス感染症による影響を考えて加入しました。

コロナ禍で、花きの売り上げが想像以上に厳しい中でしたが、収入保険がカバーしてくれるという安心感がありました。

一定の経営収支が見通せることで設備投資等を見込んだ営農計画を立てることができるのも良かったです。

今後は設備投資を進めて省力化と品質向上を図り、長期的に経営安定を図りたいです。

【広報紙「和み」2021年11月号掲載】

収入保険 ～加入者の声～



つなぎ資金が 経営の大きな後ろ盾に

〈登米市・株式会社石ノ森農場〉

代表取締役 山内 健太郎さん

水稻40畝、施設キュウリ75畝、タマネギ70畝、花き（トルコギキョウ、ストック、アスター）50畝を栽培しています。

リスク管理の重要性を感じ、収入保険に加入しました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は相当で、春彼岸用の切り花の売り上げは落ち込んだうえ、米価の下落で大幅な収入減が見込まれます。規模拡大を伴う新規事業で資金が必要となった際には、収入保険のつなぎ融資の利用を決めました。

つなぎ融資は無利子で決済が早く、資金調達はスムーズにできました。経営の大きな後ろ盾になっており、安心して事業を運営できます。

【広報紙「和み」2021年11月号掲載】

収入保険加入で心に余裕

〈柴田町〉

根元 雄一さん

鉄骨ハウス4棟、パイプハウス5棟で1年を通してスプレーム、サイネリア、ポットカーネーションを栽培しています。

昨今のコロナ禍も影響し、出荷量が同じでも価格が安定しないことが悩みです。**収入保険は自らの経営に沿った基準収入の設定と充実した補償が魅力で、平成31年から加入しています。**

令和元年の台風19号では、川から越水した雨水が鉄骨ハウスの中に入り込み、出荷前の鉢花がすべて冠水する被害を受けましたが、収入保険の存在に救われた気持ちになりました。

今後も、収入保険への加入を安心材料に、品質の良い花作りに取り組んでいきたいです。



【広報紙「和み」2021年11月号掲載】



山間地農業の心配が解消

〈大和町・(株)みらいファームやまと〉

取締役 早坂 美代子さん

ワイン用のブドウ3.3畝を栽培するほか、ニンニク1.4畝を生産しています。

ブドウは標高の高い七ツ森の山奥で栽培しており、鳥獣害が心配でした。収量の減少はワインの醸造量に関係し、翌年の経営にまで影響します。ニンニクは作付けしている圃場の水害が不安です。

収入保険は、生産した作物が収穫や販売ができないリスクを幅広く補償してくれるため、安心して経営に励むことができます。

今後は6次産業化を見据えて営農に励み、地元に貢献していきたいです。

【農業共済新聞2021年10月2週号掲載】

収入保険

～加入者の声～



避けられない

リスクにもしっかり対応

〈登米市〉

小野寺 政夫さん・洋大さん

2.3畝の園地でリンゴ「ふじ」を主力に25品種を栽培しています。

栽培技術の更新を行っていても、自然災害など避けられないリスクがあります。父の経験でも過去に大きな降ひょうの被害が2回ほどあったと聞きます。**収入保険にはさまざまなリスクに備えるため加入しました。**

今年の春に凍霜害が発生し、ふじで7割、他品種で5割程度の被害が見込まれますが、収入保険に加入していてよかったと安心しています。

リンゴは家庭での消費が多く、コロナ禍の影響は少ないですが、これからも収入保険に期待しています。

【農業共済新聞2021年9月1週号掲載】

自然相手の農業で経営の支えに

〈大河原町・農業生産法人 かながせ〉

代表理事 鈴木 恒男さん

大麦43.8畝、大豆42.7畝、エダマメ1.3畝を栽培し、大麦と大豆の栽培面積の約4分の1は、種子生産受託契約を結んでいます。

大豆や大麦は連作障害が生じやすく、また、湿害に弱いため、天候次第では収穫量が皆無となる不安がありました。

収入保険ならいざというときの備えになるし、何より自らの収入をベースとした基準収入の9割を下回った際に補償される点に大きな魅力を感じています。

高齢化に伴い、受託農地はますます増えていくなか、農業は自然相手の仕事です。収入保険のような制度が経営の支えに欠かせない存在となっていくと思います。



【農業共済新聞2021年8月1週号掲載】



獣害への補償が心強い

〈栗原市〉

菅原 博さん・勝子さん

水稻16畝を作付けするほか、繁殖和牛5頭、育成牛4頭を飼養しています。

収入保険は基準収入の9割を下回った際に補償されることに魅力を感じて加入しました。

私たちの地区では、イノシシによる被害が年々増加していて、昨年は一部収穫を断念するほどの被害がありました。

手塩にかけて育てた稲をイノシシに踏み荒らされ、心が折れそうになりましたが、収入保険に加入したことで収入減少が補償されるため安心しています。

規模拡大は難しいので、体と相談しつつ、夫婦で仲良く営農を続けていきたいです。

【農業共済新聞2021年7月1週号掲載】

収入保険 ～加入者の声～



規模拡大にも 安心して取り組める

〈大崎市三本木〉

桑添 健一さん

水稻約15畝、大豆6畝、長ネギ1.5畝のほか、ハウス20畧で野菜を栽培しています。

安定しない天候と米価にいつも不安を感じていました。規模を拡大しても、米価の下落で収益が変わらないこともあります。

収入保険には、予期せぬ事態への備えとして加入しました。加入時は積立金の負担が大きいと感じていましたが、分割納入もでき、積立金は補てんがなければ次年に繰り越されるので納得しました。

今後、就農した息子と一緒に経営規模を拡大していく予定です。農業者には大型化に伴うリスクにも対応できる収入保険をお勧めしたいです。

【農業共済新聞2021年5月2週号掲載】

経営を安定させ社員を守る

〈加美町小野田・農業生産法人（株）原グリーンサービス〉

代表取締役社長 相澤 磨美さん

主食用米45畝、飼料用米30畝、大豆7.5畝、加工用キャベツなど2畝を栽培し、JAなどへ出荷しています。



収入保険に加入した決め手は、幅広い品目の補償です。露地栽培や施設栽培にも力を入れており、限られた対象品目や対象期間、収量のための補償では賄いきれない収入減少を心配していました。収入全体を見たうえで減少分をカバーする手厚い内容が魅力です。

前社長から引き継いだ会社を守るため、そして社員を守るため、安定した農業経営を目指していきたいです。

【農業共済新聞2021年6月1週号掲載】



無利子のつなぎ融資で経営継続

〈大崎市鹿島台・有限会社 マルセンファーム〉

代表取締役 千葉 卓也さん

鉄骨ハウス内でトマト1.5畝、ホウレンソウ60畧、キク1畝を栽培するほか、水稻38畝を作付けしています。

2019年10月、台風19号によりハウスが最大で3畧ほど冠水するなど大きな被害を受けましたが、収入保険のつなぎ融資を受け、経営を継続することができました。

短時間で大雨が降る、予想できない災害を経験し、災害に備えて収入保険に加入することは欠かせないと思っています。

災害は数年に一度とは限りません。加入時は保険料等が高いと感じていましたが、実際このような被害に遭うと支えがある安心感があります。

【農業共済新聞2021年4月2週号掲載】



素早い融資・

手厚い補償が経営の一助に

〈登米市豊里町・有限会社 三菜寿〉

代表取締役 中澤 宏さん

畑3畝で寒じめハウレンソウを栽培するほか、ハウス1畝でトマトやレタスなどを高設栽培しています。

収入保険 ～加入者の声～

寒じめハウレンソウは、特定機能性表示食品に認定されていて価格設定が他の野菜と異なります。**収入保険は、個人や品目ごとに補償金額が設定されており、経営に合っていると思いました。**

経験から、ある程度リスクを予測できますが、昨年の台風19号の被害は想定外でした。**収入保険のおかげでつなぎ融資を受けたり、収入減少分が補償されたりと、強い味方です。**「素早い融資」と「手厚い補償」で安心して事業を進められます。

【農業共済新聞2020年12月1週号掲載】

経営のリスクをカバーできる

〈仙台市〉

伊藤 信之さん

水稻16.5畝、大豆6.5畝のほか、ハウスでコマツナ23畝を栽培しています。



出荷先の倒産や、代金の未納など、取引を行う上で避けられない、経営のリスクをカバーできると知り、加入を決めました。

収入保険は「収入の減少」という実情に近い形で補償してくれるので安心できますね。

2019年の猛暑では、水稻の収量が大幅に減少してしまいました。面積を増やした中で収入減だったので、保険金が支払われ、加入して良かったと実感しました。

これからもリスクに備えながら農業を続けていきます。

【農業共済新聞2021年3月3週号掲載】



『NOSA I への信頼』が決め手に

〈石巻市〉

阿部 俊秋さん

水稻2畝を栽培しています。

不測の事態に備え、初年度から収入保険に加入しました。**決め手は、NOSA I との信頼関係ですね。**

加入後、体調を崩し面積を減らしたことで収入が減少しましたが、収入保険が経営の支えとなってくれました。

予測できない減収が発生するリスクが高まっている中、幅広いリスクから農業経営を守る収入保険は魅力です。特に、農業は他産業と比べ「備え」と呼べるものが不足しています。収入保険は営農を続けていく上での安心材料になると思います。

【農業共済新聞2021年5月1週号掲載】

収入保険

～加入者の声～

収入保険で水害に備える

〈栗原市築館〉

佐藤 幸悦さん

水稻8畝、ホウレンソウ19畝をJAなどに出荷しています。



築館は伊豆沼に流れる河川が氾濫しやすいため、これまで何度も大雨などの影響で稲が浸水し、収量や等級が下がってしまう経験をしました。

最近は大雨などの異常気象の発生頻度が高いため、**収入の減少を確実に保証してくれる収入保険は必要**ですね。

自然災害だけではなく、妻が病気で、トルコキキョウの作付けが計画通りにできず収入が減少した際には保険金が支払われ、助かりました。

今後、息子へ経営委譲したときも、息子の経営を支えてくれるものだと思っています。

【農業共済新聞2020年10月1週号掲載】

「実態に基づいた補償」に安心

〈岩沼市・農事組合法人 玉浦南部生産組合〉

代表理事 森 康彦さん

水稻97畝、大豆11畝のほか、
ハウス60畝でキュウリを栽培しています。



東日本大震災で営農休止を余儀なくされ、2013年に営農を再開しました。

近年は、何かしらの気象災害が発生し、生産物の品質低下で収入が安定しません。面積が大きいので、等級が1つでも下がると大幅な収入減少につながるため、収量の補償だけでは不十分でした。

収入保険は、**基準収入を軸に経営の実態に基づいて収入が補償される点が魅力**です。

新型コロナウイルスが今後さらなる猛威を振るうことも考えられ、従業員が感染し、現場の稼働率が落ちた場合の収入減少に対応できることも未来に向けて安心です。

【農業共済新聞2020年9月2週号掲載】

「不慮の事故・罹患のリスクに対応」が決め手

〈角田市〉

安齋 久さん

ハウス23畝で県産イチゴ品種「もういっこ」を高設栽培しています。



イチゴ栽培は、安定した収量が得られる技術体系が確立されてきていると感じますが、それでも経営のリスクは潜んでおり、一番の不安は健康面です。

常時パート従業員は2名いますが、専従者は私だけなので、私が現場に出られないと作業全体が滞ってしまいます。

収入保険は、健康面のリスクを補償してくれるので加入を決めました。不慮の事故、罹患はいつ起こるか分かりません。だからこそ、不安や不確定要素を減らし、経営を守ってくれる収入保険で備え、これからも高品質なイチゴ作りに励みます。

【農業共済新聞2020年11月2週号掲載】



『幅広い品目の補償』が魅力

〈色麻町・株式会社 スマートアグリ庄子〉

代表取締役 庄子 智弘さん

主食用米7.2畝、飼料用米を1.9畝、ネギ3畝を作付けするほか、タマネギ、キャベツを露地栽培しています。

収入保険

～加入者の声～

幅広い品目の補償が加入の決め手です。収入保険は収入全体を見て減少した分を補償するうえ、一年を通してあらゆるリスクに対応している点が魅力です。保険金が支払われる基準も分かりやすいですね。

最近、全国各地で大規模な自然災害が発生し、さらに今年は新型コロナウイルスが流行しています。あらゆるリスクへの「備え」は重要だと感じています。

設備投資や新品目の導入など、農業経営のリスクを踏まえ、収入保険が新しい取り組みを後押ししてくれると期待しています。

【農業共済新聞2020年8月1週号掲載】

保管中の災害に備えるために

〈大崎市古川〉

坂井 美津男さん

水田14畝で水稻8品種、転作田9畝で大豆を栽培するほか、味噌や米麴などの加工品を手掛けています。



異常気象が心配で、収穫できても品質や収量の低下につながりかねませんし、販売価格の下落も不安です。保管中に災害にあった場合の補償も必要だと考えていました。

収入保険は、収量減少や品質低下、価格の下落、保管中の事故や盗難などによる収入減少に対応するので良かったです。最初は高いと思った保険料も十分な補償を受けるには必要な投資だと思います。

昨年は水稻と大豆で収量が減少し収入が減りましたが、保険金が支払われて安心しました。安定した経営を続けていきたいです。

【農業共済新聞2020年8月2週号掲載】



「個々の農業収入で補償」に安心感

〈大郷町・農事組合法人 DSファーム〉

代表理事組合長 佐々木 清隆さん

水稻26畝、大豆24畝を作付けするほか、ネギ33畝を栽培しています。

規模のわりに栽培品目が少なく、天候による収穫量のばらつきや価格変動といったリスクに対応できずにいました。

収入保険は、収量減少だけが補償の対象ではなく、個々の農業収入が補償の基準になっているため、経営の実態に沿っていることに安心感があります。

昨年発生した台風19号では圃場近くを流れる吉田川が決壊し、収穫期を迎えていた直播栽培の「ひとめぼれ」や大豆が水没してしまいました。「足腰の強い営農」の必要性を痛感し、農地の復旧や新しい機械導入の資金調達等、次代へつなぐためにも収入保険が補充してくれると期待しています。

【農業共済新聞2020年4月3週号掲載】

収入保険

～加入者の声～



新品目チャレンジの後押しに

〈大崎市松山〉

佐々木 勝敏さん

露地2畝、ハウス5棟でズッキーニやネギ、ダイコンなど野菜を栽培しています。

作付けする野菜が加入できる補償制度がなく、不安の中で栽培していました。また、スタッフを数名雇用していますが、スタッフに何かあった場合に作業が回らなくなる不安や、増加する獣害にも悩まされていました。

収入保険は、**すべての品目が補償の対象となるほか、病気やケガで労働力が十分に確保できずに収穫が遅れて収入減少があった場合も対象になる**と聞き、迷わず加入しました。

収入保険に加入することで、経営のディフェンスは整ったと感じています。これからは新しい品目にチャレンジし、強気のオフェンスをしていきたいと思います。

【広報紙「和み」2019年11月号掲載】

頻発する自然災害への備えに

〈山元町〉

佐藤 捨夫さん

水稻1.5畝、イチジク40畝のほか、シュンギク、ユキナなど10品目ほどの野菜を栽培しています。

全国的に頻発する自然災害が一番の不安で、ニュースなどで農産物の壊滅的な被害を目の当たりにすると、他人事とは思わずにいました。

収入保険は、**品目を限ることなく、農産物すべての販売収入が補償の対象となるため**、被災後に廃業するという心配を打ち消してくれる素晴らしい保険だと思います。

将来的には息子への経営委譲を考えています。良好な経営状態で譲りたいと思っており、最悪の状態回避は収入保険の収入補填だと信じています。



【広報紙「和み」2019年11月号掲載】



保険金の支払いに満足 今後の経営も安心

〈美里町〉

涌井 良宣さん

ナシ40畝を手掛けるほか、水稻5畝、大豆2畝、ニンニクやジャガイモなどの野菜を10畝栽培しています。

既存の果樹共済の補償単価は一律で、実際の販売単価よりも下回っていることがほとんどです。2017年に発生した台風18号では多くのナシが落下しましたが、**既存制度では十分な補償が受けられず、経営を維持することが困難だと感じていました。**

収入保険は**自分の経営に沿って販売単価が設定できる**と聞き、すぐに加入を決めました。

昨年の台風19号などで収入が減少した分について、収入保険で保険金が支払われ満足しています。今年も3月下旬に降霜や低温の被害があり、今後の生育が心配ですが、収入保険のおかげで安心して栽培に取り組んでいけます。

【農業共済新聞2020年5月2週号掲載】

収入保険 ～加入者の声～



『収入全体が対象』にメリット

〈大崎市松山〉

寺田 守彦さん

水稻を1畝、畑20畝でソラマメ、トウモロコシ、ピーマンなどを栽培しています。

勤めているため農業は土日に行ける範囲を自分で行い、あとは作業委託しています。20畝の畑では、年間20～30品目程度を少量多品目で栽培しており、**品目ごとに補償されるよりも1年の収入全体が補償となる点が、わが家のような営農スタイルに合っていると感じました。**

収入保険の加入要件となっていることから、税務申告を2017年分から青色申告に移行しました。

NOSAIには、収入保険の加入推進を図るためにも、利点を説明しながら青色申告を進めていただきたいと思います。

【農業共済新聞2018年10月24日号掲載】



あらゆるリスクに備えるために

〈石巻市・農事組合法人エコルファーム〉

代表 後藤 嘉伸さん

水稻33畝、転作大豆12畝、黒ニンニク用のニンニクを試験的に栽培しています。

年々拡大する規模に対応するためには、収入の補償が欠かせません。以前、収穫直前の台風で大きな被害を受け収入が大幅に減ったこと

があり、**不測の事態に備えておくことは大切なことだと実感しました。**

加入は、収穫物の収量減少だけではなく、販売価格の低下による収入減少など、あらゆるリスクから私たちを守ってくれるから決めました。 収入の補償があれば、女性の雇を増やすほか、6次化や設備投資を進めることにも積極的になれる。何より、心に余裕ができます。

【農業共済新聞2020年3月3週号掲載】

『ケガや病気による収入減少も対象』が決め手

〈大河原町〉

跡邊 信吉さん

水稻5.5畝、夏秋キュウリ、ソラマメ、ウメなどを露地栽培しています。



販売価格の変動による収入減少が不安でしたが、収入保険は**収入全体が補償の対象**となるので安心してしています。

加入の決め手は、**ケガや病気で収穫や出荷が間に合わず収入が減少した場合も対象となることでした。予期せぬ事態に備えられることは、大きな魅力です。** 収入保険に加入すれば保険料が一本にまとめられ、手間が省けて良かったです。

これからの農業に、収入保険は必要な存在になっていくと思います。

【農業共済新聞2019年11月1週号掲載】



『強い農村』のための 新たなセーフティネット

〈加美町中新田・有限会社 平柳カントリー農産〉

代表取締役社長 我孫子 弘美さん

主食用米21畝、飼料用米を9畝、大豆は15畝、
エノキダケを年間500トﾝ生産しています。

以前より米価の低迷とエノキダケの価格に波があるため、経営に苦労しています。エノキダケの生産施設を改修するなどして生産性は上がっていますが、価格が下がっているの
で収入は増えていません。

「一農家」の経営から、雇用を確保できる「強い農村」に変化する時期になっています。
収入保険は強い農村のセーフティネットだと思います。

収入保険の保険料は比較的安いと感じていますが、積立金は経営規模が大きくなるほど
負担も増すので、借入や補助を自治体へ要望してほしい。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『経営体個々の実績で補償』が魅力

〈栗原市志波姫・農事組合法人 i ファーム〉

代表理事 三浦 章彦さん

主食用米を30畝、飼料用米6畝、大豆43畝、
キャベツ1畝を栽培しています。

近年、水稻も大豆も供給量が増え、値下がり傾向にあるのも心配です。

収入保険に加入を決めた理由は、①補償の基準が経営体ごとの過去の収入実績、②品目
を問わず収入全体で補償される、③掛金の全部が掛け捨てではないなどいくつかあります。

また、キャベツは値ブレが大きいのですが、栗原が産地指定になっておらず、加入でき
る制度がなかったというのも理由に挙げられます。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『安心して営農に取り組める』備え

〈仙台市泉区〉

永澤 太さん

水稻を38畝栽培しています。

この他に田植え4畝、稲刈り6畝の作業を受託しています。

面積が増えれば売り上げも増えますが、コストが掛かり増しになることもあります。リ
スク管理を一から考え直し、「収入減少をいかにして食い止めるか」が重要だと考えてい
ます。

収入保険は、さまざまな要因の収入減少に対応し補償も厚いので、「安心して営農に取り
組める」と思い加入しました。青色申告で収入を審査されるのは、加入者自身が数字と
して確認できるので、分かりやすい制度だと思います。

今後は営農規模の維持と法人化を視野に組織を整えていきたいと考えています。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】

収入保険 ～加入者の声～



『社員の生活保障』に一役

〈石巻市福地・株式会社 宮城リスタ大川〉

代表取締役 大槻 稲夫さん

水稻160畝（直播14畝含む）、大豆72畝、
鉄骨ハウス80畝で輪ギク、冬場は葉物野菜も栽培しています。

大川地区は、浜風が入り込む冷涼な環境のうえ、東日本大震災の津波で浸水耕地になりました。この環境の中で水稻は10畝当たり8俵を目標に栽培しています。

自然相手の仕事なので、**近年の異常気象による災害も怖い**です。**基準収入の9割を下回った場合に補てんしてくれる収入保険は、社員やパートさんの生活保障のプレッシャーから解放してくれる**と思い加入しました。

万一に収入が減少した際は、速やかな保険金の支払いをお願いします。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『加入する制度を一本』にして簡潔に

〈大崎市鹿島台〉

矢走 恵美子さん

水稻は主食用米20畝、飼料用米4畝、大豆14畝
施設野菜（ホウレンソウ、青ネギ）20畝を栽培しています。

近年発生する想定外の災害や、繁忙期などに人員が確保できないかもしれないなどの不安を感じていたのに加え、品目ごとに加入手続きをする必要がなく、まとめることができるので、収入保険への加入を決めました。保険料や保険金支払対象になるかどうか、青色申告の書類で計算されるというのは、税務申告＝収入保険への申請となるので、この点でも分かりやすいと思います。

備えを用意しておくことで安心感があります。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『労働力の確保』・

『新たな販路の開拓』に備え

〈角田市北郷・面川農場株式会社〉

代表取締役 面川 義明さん

水稻36畝、大麦7畝、大豆7畝を栽培しています。

近年、天候が不安定で農業被害が甚大になっていることを危惧しています。安定生産を心掛けていますが、天候に左右されてしまうのが現状です。

地域では離農が進んでおり、受託する面積が増えています。労働力確保が課題になりますが、**限られた労働力の中で何かあったときや、新たな販路を開拓した取引先に何かあったなどに、収入保険は農家経営の安定にはもってこいの保険**と思い加入しました。

NOSA I には今後も期待しています。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】

収入保険 ～加入者の声～

『為替変動のリスク』への備え



〈大和町宮床・赤間農業開発株式会社〉

代表取締役 赤間 良一さん

主食用米50畝と加工用米10畝、その他WC S用稲を3畝作付。
加工用米は甘酒生産に利用して、年間1万本製造しています。

最近海外にも販路を広げています。収入保険への加入の決め手は、**輸出時の為替変動による収入減少も補てんの対象になる**と説明を受けたからです。また、年々増加する獣害に対して、収入が補てんされる制度が必要だと感じていたことも理由の一つです。

農業者個々の販売収入を基準に補償されることもうれしいですね。

農業経営のリスクには、自分の力では補いきれないものがあります。収入減少を補てんしてくれる収入保険に期待しています

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】

『個人ごとの収入が基準』は明確



〈登米市迫町・株式会社高橋アグリファーム〉

代表取締役 高橋 幸三さん(宮城県認定農業者組織連絡協議会会長)

水稻12畝を栽培するほか、牧草3畝、作業受託面積が5畝、繁殖牛30頭を飼育しています。

宮城県認定農業者組織連絡協議会の会長と、全国認定農業者協議会の副会長を務めていることもあって、収入保険については早い段階から知ることができました。

収入保険は、**県平均の収量とか地域の平均価格ではなく、個人ごとの収入が基準となるので、明確に個々の実経営のマイナス部分を補てんしてくれる**と思い加入しました。

農業は、収量が平年並みであっても収入減少ということがあります。収入保険は**あらゆるリスクから農家経営を安定させる備えになる**ので、もっと力強くPRしてもいいと思います。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】

『農産物すべての補償を一本化』



〈岩沼市林・農事組合法人 林ライス〉

代表 田村 孝彦さん

水稻60畝、大豆16畝、露地野菜2畝を栽培しています。

天候が農産物の収量・品質に影響するので、心配が絶えません。特に、野菜は価格低下の幅が大きく、加入できる補てん制度もなかったのが不安を感じながら栽培していました。

収入保険は、**農産物すべてが補償の対象になるので、品目ごとの補償内容を理解する必要がなく、加入手続きをまとめることができ、至ってシンプル**ということで加入を決めました。

乾田直播などで労力軽減を図り、将来的には野菜部門の面積を増やしたいと考えていますが、この点でも収入保険は強い味方になってくれると考えています。

【広報紙「和み」2019年9月号掲載】



『すべての品目が対象』が決め手

〈東松島市赤井〉

齋藤 英彦さん

水稻10畝、ナス、トマトなどの野菜苗

トウモロコシやハクサイを栽培（20㍍×2作）しています。

野菜は、豊作でも価格低下の不安が常にあります。野菜価格安定事業の指定品目になっていない作物も作っているので、販売収入全体を対象にする収入保険への加入を決めました。新しい品目にも安心して挑戦できます。

繁忙期に病気やケガで動けなくなって、収穫に大きな影響が出るのが心配でしたが、このような要因の収入減少も対象になると聞き安心しました。

将来的に従業員を雇用することになった場合でも収入保険は心強いです。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『農業収入全体の補償』なのに今より安い保険料

〈登米市米山町・株式会社 たいら〉

代表取締役 千葉 正規さん

水稻14畝、大豆32畝、イチゴ35㍍を栽培しています。

イチゴは、市場価格の変動が激しく安定していないので、収入保険への加入を検討しました。現在の経営規模で保険料などをシミュレーションしてもらったと、イチゴを含む生産収入全体の補償なのに、水稻共済と大豆共済で支払っていた掛金と同じくらいだったので加入を決めました。

もちろん、いろいろなリスクに対応しているという補償内容にも納得しています。

今後、経営規模拡大を図っていく中でも、安心できる「備え」になってくれると期待しています。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『個々の収入実績で補償』に着目

〈涌谷町吉住・農事組合法人 吉住米麦〉

組合長 浅野 邦夫さん

水稻31畝、大豆38畝、大麦11畝、牧草5畝を耕作。

収入保険は、数ある保険の一つの選択肢と考えていました。補償の基準が県内平均ではなく、経営体ごとの過去の収入実績というところが気に入っています。一昨年、長雨の影響で大豆が減収した際は、品質も落ち、収入が大きく減少しました。この経験から、収入減少を補償する保険を望んでいたところでした。

構成員の高齢化が心配されるので、これ以上の面積は増やさず、品質向上を目指していきたいですね。まずは保険金をもらわないように頑張ります。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『金額ベースでの補てん』に魅力

〈角田市枝野〉

門馬 希道さん

水稻36畝、麦2畝、大豆3畝を経営しています。

農産物は、収穫量が増えても収入が減少することがあるので、**収入が基準収入の9割を下回った場合に、下回った額の9割まで補てんされる収入保険に魅力を感じました。**

地域では離農が進んでいるため、作業受託により経営面積が増えるにつれ、農繁期の機械トラブルが心配です。**ケガや病気で労働力が十分に確保できず、結果、収穫遅れなどで収入減少が発生することもあります。収入保険は、こういったリスクもカバーしてくれるので安心です。**

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『収入補償』で施設整備や機械更新などの不安を払しょく

〈栗原市若柳〉

高橋 敦司さん

水稻8畝、ビニールハウス8棟(850坪)で花苗と野菜苗を生産しています。

苗生産は、**市場での価格変動が大きく収入減少につながる可能性があります。**これまでは収入減少に対する不安から、施設整備や機械の更新といった投資をためらうことがありました。**収入保険に加入することで価格低下などの際に補償されれば、施設整備や機械更新などが不安なくできると思いました。**

比較的自然災害を受けにくいハウス栽培ですが、施設への被害で収穫ができなくなることは大きな不安材料です。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】



『NOSA Iへの信頼』が決め手に

〈亶理町吉田〉

永谷 和彦さん

水稻2畝、リンゴ1畝を栽培する果樹農家です。

NOSA I 職員が、保険料や補てん金について**分かりやすくシミュレーションしてくれ、説明も丁寧だったので、信頼できると感じ加入を決めました。**

昨年10月に台風24、25号が続けて襲来し、リンゴの落下や倒木といった深刻な被害を受けました。今後、このような被害が発生しても、**収入保険で基準収入の9割を下回った場合、補償の対象となるので安心です。**

収入保険は、農業収入全体で判断するので、シンプルで分かりやすいと思います。

果樹農家や、小規模でも新しく挑戦する農家の方々に、経営の支えとなる収入保険をお勧めします。

【広報紙「和み」2019年7月号掲載】